

通学路安全マップの充実による登下校の安全確保

山口県教育庁学校安全・体育課

子どもの安全を守るために安全教育を充実し、子ども自身が危険を予測し、危険を回避できるような資質や能力を育てることが不可欠です。このことは、不審者の学校への侵入時のみならず、登下校や地域での遊びや生活の中での犯罪被害防止と安全確保に役立ちます。

その方法の一つとして有効なのが、通学路安全マップを作成することです。これにより、通学路の危険要注意箇所等の把握を行うとともに周知徹底を図ることができます。

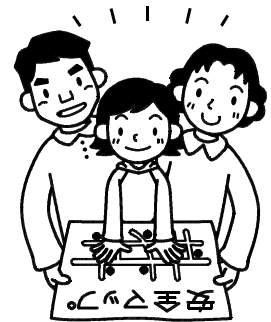
「学校への不審者侵入時の危機管理マニュアル」(文部科学省)

作成上の留意点

【作成する範囲は？】

「発達段階や地域の実情を考えて決めましょう。」

- 校区内を分担して、校区全体をまとめて
- 学校周辺や最寄りの駅までの通学路 等



【記入する内容は？】

「危険箇所とともに、緊急時の避難場所等、安全を確保できる場所も記入します。」

- 公園や空き地など、不特定の人が容易に入りやすい場所
- 路地などの道路が狭くて暗い場所、やぶなどの監視が行き届いていない場所
- 人通りが少ない場所、見通しが悪い場所
- 子ども110番の家や警察署・公共施設等の緊急時の避難場所 等



【作成する時間は？】

「総合的な学習や特別活動の時間・生徒会活動等が考えられます。」

- 総合的な学習の時間、学級活動などの学習や集会活動、学校行事
- 児童会・生徒会活動
- 子どもの家庭学習の課題 等



【情報を収集する方法は？】

「気づきや主体性を促すため、子ども自身が現場を見て情報を収集するとよいでしょう。」

- グループで、生徒会活動で、親子一緒になど、ねらいと発達段階等を考慮
- 地域、ボランティア、警察の方々の意見や情報も活用

【作成例：A校の実践例】

《準備》（目的や方法を事前に説明！）

- グループに分かれ、地域を選定
- 地図(※)、文具類やカメラを準備

※ 電子国土ポータル <http://cyberjapan.jp> を利用すると便利です。

《調査》（子どもの目線で！）

- 危険箇所や避難場所をカメラで撮影、気づきを記録
- 地域住民や警察官等から聞き取り調査

《作成》（見やすく！わかりやすく！）

- 模造紙などに、道路や建物を記入
- 注意を促す場所に印をつけ、写真を貼付
- 吹き出しなどを使い、その場所の危険性を記入

《紹介》（伝える！広める！）

- 調査結果や作成の苦労などを発表する会を開催
- 全校児童生徒に見てもらえるよう昇降口に掲示
- 調査結果を教職員が地図に転記し、各家庭やスクールガード等に配付

《活用・充実》（変化に応じ常に更新！）

- マップを使って、定期的な通学路の安全点検を実施
- 児童・生徒の「ヒヤリハット体験」を収集し、マップに追加
- 警察やスクールガード等との連携で危険箇所情報を追加



地図を活用した作成例



略図にして作成した例

